

原著 佐々木 猛 辜丸ノ上皮性惡性腫瘍ニ就テ

辜丸ノ上皮性惡性腫瘍ニ就テ

日本赤十字社兵庫支部姫路病院外科及病理科

佐々木 猛 次

目次

緒言	
第一章 研究材料並研究方法	
第二章 實驗例	

第三章 本篇ノ總括及考按	
第四章 結論	

主ナル文獻
附圖説明及附圖

緒言

辜丸ノ惡性腫瘍ハ、敢テ稀有ナリト言フ可ラズ。其發生機轉或ハ、形態學的造構ニ就テ微細ニ論究セラレタルモノ亦、尠シトセズ。サレド其分類ニ關シテハ甲論乙駁、未、歸趨スルトコロヲ知ラズ。余ハ特ニ該問題ニ對シ、余ガ經驗セル數個ノ症例ニ就テ檢索シ、得タル卑見ヲ述ントス。

第一章 研究材料並研究方法

本研究ハ當病院外科ニ於テ、辜丸腫瘍ノ診斷ノ下ニ、手術シ得タル標本四例ニ就テ行ヒタリ。而テ、是等ノ材料ハ總テ十%「フォルマリン液ニ固定シ、然ル後、其各部ヨリ出來得ル限り廣汎ナル組織片ヲ採リ、「チエロイデン」包埋法ニ據リ、切片ハ「ヘマトキシリン」「エオジン」複染色法、ワンギーソン氏染色法、並ニ菊地氏格子狀纖維染色法ヲ用ヒタリ。

第二章 實驗例

第一例 年齡 二十九歲。

初診 大正十四年六月十五日。

現病歴 大正十一年六月頃ヨリ自覺的ニ、右睪丸ガ左ニ比シ少シク増大セルヲ認メタルガ、該睪丸ハ疼痛ナクシテ漸次其大サヲ増スト共ニ、牽引様疼痛ヲ惹起スルニ至リ、同時ニ全身倦怠ノ感加ハリ氣力ヲ失フニ至レリ。

臨床的所見 右睪丸ハ鶏卵ヨリ稍、大ニシテ硬度鞏、形態ニハ著變ヲ呈セズ。同側棘系ハ拇指大ニ擴張シ、僅ニ壓痛ヲ認ムルノミ。右鼠蹊韌帶ノ上縁ニ沿ヒテ、其深部ニ不動性、且、硬キ淋巴腺ノ腫大セルヲ認ム。

肉眼的所見 同年六月十七日、手術ニヨリ患側睪丸ヲ摘出ス。後日更ニ、腫瘍ノ轉移ニ對スル處置ヲ行ハント約セシモ、患者ノ都合ニ依リ止ムヲ得ズ中途退院シ、其後消息不明ナリ。摘出シ得タル睪丸ノ大サ鶏卵大ニシテ、略、卵圓形、外面平滑、灰白白色ヲ呈シ、硬度鞏ナリ。剖面殆、睪丸ト副睪丸トノ境界判然タラザルモ、其下部ノ被膜下即、副睪尾部ナリヤト思ハルル部ト睪丸部トノ間ニ僅ニ、境界有ルガ如ク見ユ。腫瘍ノ上部ハ鶏卵大ノ赤色寒天様物質ヲ包容セル多房性囊狀ヲ呈スル部ニ移行ス。一般ニ光澤ニ乏シク粗糙ノ感アリ、剖面ノ中央部ニ於テハ灰白白色ノ分岐セル結締織性網羅ヲ形成シ、往々、大豆大ノ乾酪様變化ニ陷レル部分ヲモ散見ス。更ニ精系ニ移行セリトオボシキ部モ亦、剖面ノ性狀ハ略、睪丸ニ於ケル所見ト等シ。

顯微鏡的所見 睪丸組織固有ノ造構ハ殆、認メラザレ共、稍、細精管壁ノ原形ニ一致シテ網羅狀ニ分岐セル結締織性間質ヲ以テ區劃セラレタル數多ノ細胞群アリ。該細胞ハ精上皮固有ノ形態ヲトルモノ極テ小數或ハ、全ク、之ヲ缺キ寧、大ナル圓形、或ハ卵圓形、胞核亦原形質ニ準ジテ大ナル細胞ニシテ、屢々不規則胞核分裂像ヲ認ムルト共ニ、多核巨態細胞ノ形成ヲモ有ス。而テ、該腫瘍細胞ノ配列狀態ハ一般ニ、何等整然タル秩序ヲ保有スルコトナキガ

如シト雖、處々圓形、或ハ、不正輪狀、恰、腺管ヲ偲バシムルガ如キ單層或ハ、數層ノ細胞集團ヲ認メシム。

格子狀纖維ハ主トシテ血管壁ニ沿ヒテ腫瘍組織内ニ放線狀ニ進入シ、鬆粗ナル細纖維ニ分岐シ、數個ノ腫瘍細胞群ヲ抱擁セリト雖、概シテ該纖維ノ存在ハ極テ僅少ニシテ、之ヲ認メ得ザル部分甚多シ。

第二例 年齡 四十五歲。

初診 大正十四年十一月。

現病歴 大正十三年三月頃ヨリ外傷其他何等ノ誘因ナクシテ、左辜丸ノ腫大ヲ來セリ。當時自覺的ニ疼痛或ハ、特殊ノ障礙ヲ呈セザリシヲ以テ竟ニ介セズ、ソノ儘放置セリ。爾來徐々ニ増大ノ傾向ヲ示スト共ニ、歩行ニ障礙ヲ及スニ至リシガ十四年九月ヨリ該腫瘤ノ前上部ニ當リ輕度ノ自發痛ヲアラハセリ。

臨床的所見 左辜丸ノ著シキ腫大ノタメ、陰囊小兒頭大ニシテ形態略、楕圓形、皮膚可ナリ強ク緊張セルモ移動性ナリ。腫瘤ノ表面極テ滑カニシテ、硬度鞏、濁音ヲ呈シ、前中央部僅ニ波動アリ。該部ヲ指壓スルニ稍、疼痛ヲ訴フ。腫瘤ノ上部境界ハ明ニ外鼠蹊輪ト劃シ、無障ノ精系ト連續ス。波動部穿刺液ハ微濁帶赤黃色ニシテ、極テ粘稠性ヲ帶ブ。右辜丸ハ腫瘍ノ根部ニ壓迫セララルモ、異常ナク、陰莖ハ恰、皮下ニ埋沒セラレタルガ如ク、僅ニ龜頭ノミヲ顯セリ。鼠蹊股並腹膜後淋巴腺等ノ腫脹硬結ヲ認メズ。大正十五年一月十二日摘出手術ヲ行フ。

肉眼的所見 腫瘍ノ大サ小兒頭大、重サ五七〇瓦、形態略、外見ニ一致シ、皮膚トノ間ニ癒着ナク、灰白白色ノ平滑ナル被膜ヲ以テ覆ハル。被膜血管著シク努脹セリ。精系ニハ認ムベキ變化ヲ缺グ。剖面稍、凹凸不平、一般ニ灰白白色ニシテ髓樣ノ觀ヲ呈スルモ、中央部ニ於テハ略、鶏卵大ノ組織軟化竈ヲ作り、内ニ汚穢灰白赤色ノ壞死組織及、血性無臭ノ稍、粘稠ナル液ヲ充滿ス。辜丸ト副辜丸トノ境界殆、不明ナリ。(附圖第一參照)

顯微鏡的所見 辜丸組織固有ノ像ハ僅ニ、辜丸網附近ニ於テ腫瘍細胞ノ侵襲ヲ蒙ルコト少キ部ニ明ニ殘存スルヲ認ムルノミニシテ、他ハ悉、腫瘍化セリ。腫瘍細胞個々ノ形態的所見ハ第一例ニ一致シ、細胞排列狀態ハ極テ不規則、

且、瀰蔓性増殖ヲ營メドモ屢々、該細胞ハ相連リテ腺管狀ヲ單列性排列狀態ヲ呈スル部分ヲ認ム。更ニ或部ニ於テハ増殖セル腫瘍細胞ハ尙、二、三層ニ重疊シ、多數ノ小ナル圓形、或ハ、卵圓形ナル腺管上皮性狀態ヲ示スモノアリ。(附圖第三參照)而テ斯ル部以外ノ間隙ヲ滿セル同型細胞ハ極テ鬆粗ニ排列シ、往々巨態細胞ヲ散見ス。一般ニ間質ニ乏シケレ共、血管ニ富ミ、所々管壁ノ硝子樣變性ニ陷レルモノ、或ハ、出血竈ヲ作り、組織ノ可ナリニ廣汎ナル融解ヲ來セル部ヲモ認ム。

格子狀纖維ハ血管壁ヲ纏絡シ、腫瘍組織ヲ數區ニ分割シ進入スルモ、細胞個々ノ間ニハ殆、該纖維ノ存在ヲ認メズ。

第三例 年齡 滿一歲。

初診 大正十五年七月十一日。

現病歴 大正十五年四月左辜丸ノ異常ニ腫脹シ來レルヲ以テ某醫ヲ訪ヒ罨法ヲ命ゼラル。同年七月初旬俄然高熱ト共ニ、重篤ナル症狀ヲ呈スルニ至レリ。

臨床的所見 顔面蒼白ニシテ、體溫四十度ニ昇騰シ、不安苦惱ノ狀甚キモ、他覺的ニ胸腹部臟器ノ異常ヲ認メズ。陰囊ハ浮腫狀ニ腫大シ、帶紫蒼白色ヲ呈ス。左辜丸、形態ニ著變ナキモ、大サ鶏卵ヨリ稍、大ニシテ鞏韌ナル硬度ヲ有ス。同十二日摘出術ヲ行フ。

肉眼的所見 形態、大サ、硬度等略、外見ニ一致シ、外面汚穢灰白色ヲ帶ビ平滑ナリ。剖面粗糙ニシテ、光澤ニ乏シク、灰白黃色ヲ呈シ、辜丸固有ノ造構ヲ認メ難シ。

顯微鏡的所見 辜丸固有ノ組織像ハ之ヲ發見スルコトヲ得ズ。腫瘍細胞ハ形態的ニ全ク第一例ト其所見ヲ等クス。サレド其排列狀態ニ至リテハ、著シク其趣ヲ異ニス、即、辜丸間質組織ハ其原形ヲ停メ、腫瘍細胞群之ヲ充填シ、更ニ該細胞ハ間質ニ於テモ多數存在スルヲ認ム。之明ニ細精管上皮ヨリ發生セル腫瘍細胞ガ周圍、間質ニ向ヒテ浸潤シツ、アル像ヲ窺知セシム。(附圖第二參照)斯ノ如ク、腫瘍細胞ノ増殖スル態度ヲ示スニ反シ、一部ニ於テハ稍、廣汎

ナル壞死竈モ介在ス。該部ヲ周リテ多數ノ組織球性細胞ノ集團アリ。又所々單核或ハ、多形核白血球ノ集簇部ヲモ認ム。カ、ル白血球集簇部ニ近接スル腫瘍細胞ハ一般ニ染色質ニ乏シク、胞體著ク膨大シ、又空胞ヲ形成スルモノ多數ヲ認メ得ラル。

概シテ、腫瘍細胞間格子狀纖維ヲ證明シ得ザル部多ク、タゞ一部腫瘍細胞ノ增殖旺盛ニシテ、周圍ニ對シ、浸潤性進行ノ態度ヲ示ス部ニ於テハ、多數ノ微細格子狀纖維ノ無秩序ナル錯雜ヲ認ムルノミ。

第四例 年 齡 二十八歲。

初 診 大正十五年八月九日。

現病歴 數年來左辜丸ニ無痛ノ腫大ヲ來シ、自覺的ニ些ノ障礙モナカリシ故、其儘放置セリ。然ルニ昨年末ヨリ徐々ニ増大シ來レリ。

臨床的所見 左辜丸、其形態ニハ變化ヲ認メザルモ、鵝卵大ニシテ硬度鞏、表面極テ平滑、壓痛ヲ缺ギ、陰囊ノ光線透過性ナシ。精系ニ變化ナク、鼠蹊淋巴腺ノ特殊腫大ヲ認メズ。同八月十二日摘出術ヲ行フ。

肉眼的所見 腫瘍ノ形態、大サ、並ニ、硬度、略、外見ニ一致シ、平滑ナル表面ヲ有シ、色灰白白色、僅ニ赤味ヲ帶ビ、被膜血管ノ努張セルモノナシ。剖面一般ニ淡紅色凹凸不平ニシテ、髓樣ノ觀ヲ呈シ、被膜ノ肥厚ハ著シカラズ。副辜丸ト辜丸トノ境界分明ヲ缺グ。

顯微鏡的所見 前三例ト形態的所見ヲ等クスル腫瘍細胞群ハ略、原形ニ停レル網狀結締織性間質ニ依リテ區劃セラレ、或ハ粗ニ、或ハ密ニ、細胞排列狀態ハ全ク、第一例並第二例ノ像ニ一致ス。(附圖第三參照)且、間質組織比較的侵サレザルガ故ニ、辜丸固有ノ組織像ヲ髣髴タラシムル點ニ於テ前者ト其趣ヲ異ニス。

第三章 本篇ノ總括並ニ考按

余ノ第一、第二、並ニ、第四例ノ組織像ハ從來大圓形細胞肉腫殊ニ蜂巢狀肉腫トシテ論ゼラレタルモノナリ。然レドモ余ハ此三例ニ於テ常ニ共通ノ所見即、腫瘍細胞ハ概一定ノ排列狀態(之ヲ詳述セバ、一層、或ハ二、三層ニ重疊シ小ナル圓形、卵圓形、其他不正輪狀ノ腺管狀構造ヲ營ントスル傾向ヲ示ス)ヲ保有スルコト並ニ、形態學的ニ該腫瘍細胞ハ細精管上皮細胞殊ニ、精母細胞ニ酷似スルヲ認メ、更ニ第四例ニ於テ間質組織ノ健存スルコトハ既ニ述ベタリ。以上ノ諸點ヨリシテ恐ク該腫瘍細胞ハ細精管上皮ヲ發生原地トナセルモノナラントノ言ハ容易ニ首肯シ得ラル可ク、就中、第三例ノ腫瘍細胞ハ細精管腔ノミナラズ遂ニ間質ヲモ破壊浸潤シ、而モ、該細胞ノ形態、精母ノ細胞ニ近似スル點等ハ該腫瘍ノ上皮性發生說ニ對シ、有力ナル根據ヲ與フルモノナリト思考ス。渡邊氏ハ老衰犬ニ發見サレタル細精管上皮ヨリ原發セル初期惡性腫瘍ヲ報告セリ、(第四回千葉醫學會)。余ガ第三例ハ氏ノ遭遇セル例ニ略、一致スルモノナル可シ。

以上記述セル知見ニ據リ更ニ、精密ナル觀察ヲ行ヒ得タリトセバ、從來辜丸ノ大圓形細胞肉腫ノウチニ算入セラレシモノニ於テ余ガ經驗セルガ如キ組織像ヲ具有シ、寧、上皮性惡性腫瘍トシテ取扱フ可キモノノ數多存在セシヤモ計リ知ル可ラズ。

一九〇九年、久留氏ハ Bielschowsky 神經纖維渡銀法ヲ以テセル格子狀纖維ノ有無ニ依リテ惡性腫瘍特ニ癌腫カ、將亦、肉腫カ、ノ問題ヲ解決セントセリ。即、氏ハ癌腫及、粘液肉腫ニハ格子狀纖維ナク、他ノ肉腫ニハ悉、各個細胞間ニ微細ナル該纖維ヲ確認スト稱ヘタリ。更ニ氏ハ癌腫ノ上皮細胞ガ全ク、其上皮性連結ヨリ游離シテ近隣ニ微細ナル浸潤増殖ヲナセル時、殊ニ、其臓器ガ格子狀纖維ニ富メルモノナル時ハ、此鑑別法モ亦、困難ナルコトアル可シト注意セリ。後年ニ至リテ Mallory ハ該纖維ヲ癌腫ニハ認メタルモ、肉腫ニハ發見セズト論ジ、反之、Mallory ハ肉腫ニ於テ多量ノ格子狀纖維ヲ發見シタルモ、亦全然陰性ニ終レルモノモ存在セリト言ヘリ。一九二一年九州ノ藤木氏ハ十例ノ癌ニ就テ、格子狀纖維ヲ見、十五例ノ肉腫ノ標本ニ於テ、種々ナル程度ノ格子狀纖維ヲ認メタリキ。之ニ據テ、

氏ハ遂ニ癌腫、肉腫ノ鑑別ニ對シテ、格子狀纖維存否如何ハ、何等ノ價值ヲモ有セザルモノト結論セリ。

余ガ實驗第一例ハ極テ僅小部分ニ於テ、數個ノ腫瘍細胞ヲ抱擁スル格子狀纖維ヲ具有シ、第二例並ニ、第四例ニ於テハ全、該纖維ヲ腫瘍實質細胞間ニ認ムルコトヲ得ズ。第三例ニ就テ、腫瘍細胞ノ浸潤性増殖旺盛ナル部分ニ多量ノ微細格子狀纖維ノ錯綜スルヲ認メ得タリ。サレド本來羣丸間質組織ハ格子狀纖維ヲ富有スルヲ以テ、斯ノ如ク、腫瘍ノ浸潤性増殖ヲナセル場合ニ於テハ、腫瘍細胞各個間ニ格子狀纖維ノ存在スルコトアルハ、何等疑問トスルニ當ラズ。故ニ第一例並ニ、第三例ニ於テ、僅ニ存スル格子狀纖維ハ、恐ラク、早晚消滅スベキ羣丸間質組織固有ノ格子狀纖維ノ殘存セルモノノ染色セラレタルモノナリト思推ス。サレバ羣丸ノ惡性腫瘍ヲ論ズルニ當リ、格子狀纖維ノ有無ヲ以テシテハ、癌腫或ハ、肉腫ト、劃然タル診斷ヲ下スコトハ極テ困難ナルベク、即、余ハ此點ニ於テ藤木氏ノ所說ニ左袒スルモノナリ。

次デ格子狀纖維ト腫瘍ノ増殖トノ關係ヲ述ベン。Cohn 曰ク『凡ソ腫瘍細胞ニシテ、ソノ増殖ノ旺盛ナルモノハ、格子狀纖維ヲ富有シ、且、該纖維ノ秩序整然タルモノアリ、反之、其度弱キモノハ格子狀纖維ノ發育ニ乏シ』ト。余ガ第一例ハ既ニ精系ヲ侵シ、更ニ鼠蹊淋巴腺ニ腫瘍ノ轉移ヲ來セルニ拘ラズ、其組織像、格子狀纖維ノ存在極テ僅少ニシテ、且、腫瘍細胞核ノ分裂狀態ハ亦、腫瘍増殖旺盛ナリトハ言ヒ難ク、第二、第四ノ二例ニ略、一致セルヲ認ム。第三例ノ一部分ニ於テ、無秩序ナル格子狀纖維ノ走行ヲ認メタルガ、該部ノ浸潤性増殖狀態ニ就テハ既述セルトコロナリ。余ハ氏ノ所說ニ略、一致スルモノトシテハ第二、第三、第四ノ三例ヲ得タリ。

更ニ年齡的ニ本實驗例ヲ見ルニ、第二例ハ壯年期ヲ過ギタルモ、他ハ全テ青年、又ハ幼年者ニシテ何等年齡的關係ヲ示ス事ナシ。

斯ノ如キ羣丸腫瘍ノ發生起源ニ就テハ、細精管上皮說、或ハ、間細胞說、更ニ又 Hidenmayer ノ細胞ナリトノ諸說アリテ其歸スル所ヲ知ラズ。Boyd ノ如キハ間細胞說ヲ持シ、最近中村教授モ動物ニ發見サレタル間細胞ノ腫瘍狀増殖

ニ就テ述ベラレ、本田氏亦成人ニ得タル間細胞ノ腫瘤狀増殖ヲ報告セリ。余ガ實驗例ニ於テハ其腫瘍細胞ハ形態學的ニ寧、精母細胞ニ近似スルモノニシテ、即、細精管上皮ノ異型的増殖ニヨリテ形成セラレタルモノナリト思考ス。

結 論

一、所謂辜丸ノ大圓形細胞肉腫ト稱ヘラル、モノハ、ソノ細胞ノ形態並ニ、増殖狀態ヨリ推シテ、余ガ例證ニ於テハ寧、上皮性惡性腫瘍トナスベキモノナリ。

二、腫瘍組織内ニ於ケル格子狀纖維ノ有無如何ハ特ニ、辜丸ニ於テハ、癌腫、肉腫ノ問題ニ對シテ何等意義アル鑑別法トナラズ。

三、辜丸ノ上皮性惡性腫瘍ノ發生ニ對シ、余ガ例ニテハ年齡的關係ハ存在セズ。

四、余ガ辜丸ノ上皮性惡性腫瘍ハ細精管上皮ノ異型的増殖ニヨリテ發生セルモノナラン。

主ナル文獻

- 1) 松井、格子狀纖維ニ關スル現今ノ智識(日新醫學、第三年、第九號、大正十三年)。
- 2) 菊地、「タンニン酸銀沈着法ニヨル病的組織ノ研究」(京都醫學誌、第二十一卷、第六號、大正十三年)。
- 3) 久留、格子狀纖維ト腫瘍トノ關係(中外醫事新誌、七一三號)。
- 4) 仁藤、肝臓原發癌ニ於ケル格子狀纖維ニ就テ(東京醫學會雜誌、第二十四卷、第二十一號)。
- 5) 本田、諸種疾病ニ於ケル辜丸ノ病理解剖學的知見補遺(日本微生物學會雜誌、第二十卷、大正十五年)。
- 6) 中村、家兎辜丸間細胞ノ腫瘍狀増生(十全會雜誌、第三十卷、第十一號、大正十四年)。
- 7) Sakaguchi, Zur Kenntnis der malignen Hodentumoren der epithelialen, Deutsche Zeitschr. f. Chirurg. Bd. 125, 1913.
- 8) M. Cohn, Die morphologische Abgrenzung unreifer Carcinome und Sarcome unter Berücksichtigung der neueren Anschauungen über Zellen und Gewebe, Virchow's Archiv. 259. Bd. I. II. 1926.

原著 佐々木 肇 丸ノ上皮性悪性腫瘍ニ就テ

9) M. Borst, Pathologische Histologie. S. 168, 1922.

10) Garre, Küttner, Lexer, Handbuch d. praktischen Hirnr. 4. Bd.

附圖說明

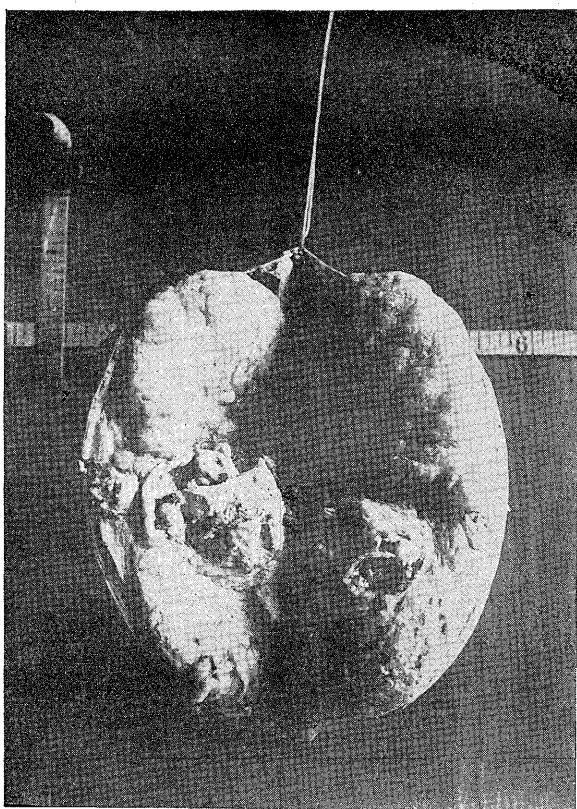
I、第二例剖面

II、第三例

III、第四例

(第一例並ニ第二例ノ組織像ハ間質結締織ノ所見ヲ異ニスルノミナレバ、之ヲ添附セズ)

I



III



II

